

+ Viva Kango

Campus News of Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing

日本赤十字北海道看護大学



平成十四年度 入学式



■在学生代表

四月五日、一一〇人（女性九八人、男性十二人）の入学生を迎え、日本赤十字北海道看護大学 平成十四年度入学式がとり行われました。今年の入学生が加わったことで、四学年がすべて揃い、学生数は四三五人となりました。

入学式場となりました講堂では、入学生と父母、在学生、関係者らが集い、まず入学生全員の名前が紹介されました。その後、松木学長から「この四年間で看護の基礎力を養い、将来、地域や世界で人の命と尊厳を守る活躍をすることを期待します。」との式辞がありました。引き続き、日本赤十字学園

新入生 看護の道めざし キャンパスライフスタート

の近衛忠輝理事長の挨拶、北見市の神田孝次市長（千葉秀男収入役代読）のご祝辞、その他多くの祝電披露を受けました。

また、在学生代表の瀬戸理沙さんから「共に助け合いながら学んでいきましょう。」という歓迎のこたばがあり、続いて、入学生代表の相澤好美さんは「看護を実践するために勉学に励み、有意義な学生生活を送ります。」という誓いの言葉を述べ、看護の道を目指す決意を新たにしていました。

入学式終了後は、入学記念写真の撮影が行われ、希望と緊張の大学生活第一日は無事終了しました。



■入学生代表

学長から新入生歓迎の言葉



学長 松木 光子

本学は赤十字のhumanityを理念とした看護専門職の学士課程です。赤十字のヒューマニティに基づいて看護師・保健師・助産師の基礎教育を行います。

開学しまして四年目となりましたこの四月、新入生一〇名を迎えました。新入生とご家族の皆様入学おめでとうございます。学生も職員も心待ちにしています。歓迎申し上げます。

今年から全学年がそろい、一層にぎやかに活発に、そして忙しくなりますが、来年の春には最初の卒業生を送り出すということで、うれしく頼もしい思いがあります。

従来の看護婦・保健師・助産師の名称が本年三月から前出の看護師・保健師・助産師に名称を変更いたしました。従来の名称は長い間親しんだものですが、男女均等の考えやより専門職らしい名称への変更と認識されています。

のびのびとした北の大地でじっくり考え楽しみながら、人々の福祉に貢献できる人間学としての看護の力を、本学でそれぞれが共に培っていききたいものと期待しています。

第4回大学祭



新入生から



1年 阿部 智美

入学して三ヶ月が経とうとしています。この三ヶ月で生活環境も大きく変わり、順応するのに苦労しましたが、今は、大学の雰囲気にもなれ、同じ道歩んでいく仲間と切磋琢磨しながら、毎日楽しく過ごしています。

講義は、一年生のうちから国家試験を見据えての内容で、決して安易なものではありません。

国際現場で活動できる看護師になることを目標にこれからの四年間、勉学に部活動に有意義な大学生活を送りたいと思います。

在学中から



4年 亀石 千園

三年生の夏休みが終わると実習が始まります。大変なことが多いかもしれませんが、自分が提供したケアで患者さんが満足してくれた時はとてもうれしいし、ようやく「看護師かも」という気分になれます。ただ、実習へ行くと、なぜか解剖生理学から勉強し直している自分があるので、バイトやサークルや遊びをしつつも勉強をしておくことがポイントです。実習はあつという間に終わります。頑張ってください。



1年 井上 朋子

私は将来海外、特に発展途上国で働きたいと思い、この大学に入学しました。勉強と生活の両立はなかなか大変ですが、同じ目標をもった仲間と時に励まし合いながら頑張っています。

現在の授業は一般教養が主ですが、一般教養と言っても今までの勉強とは違い、自ら考えることが多くあります。それは、時には難しく感じることもありますが、視野が広がっていくようにも感じます。そして、看護に関連した授業を通して、改めて看護職につきたいという気持ちを実感しています。

これからの四年間、目標に向かって、充実した日々を過ごしていきたいと思っています。



3年 鈴木 彩佳

やっと全学年がそろい、大学がさらに活気付いてきました。課題がたくさん出て忙しい毎日ですが、友達の刺激をいっぱいもらい将来の夢のために楽しく学んでいます。気づいたらもう大学生活が折り返ししていて、大学生活の時間の流れの早さに驚いています。好きなことを何でも出来る時に、サークル活動や大学行事に積極的に取り組んで、四年間の大学生活を有意義に過ごして欲しいと思います。

新入生歓迎会

四月八日、本学アリーナにて新入生歓迎会が行われました。会場には、新入生、在校生をはじめ多くの教職員が参加しました。学長の挨拶の後、ジュースで乾杯となりました。その後、各講座の紹介と教員の自己紹介が行われました。会場は立食形式で、学生、教職員が一つのテーブルで学生生活や将来についてなど和やかな談話が続き、新入生もこの様な会のお陰で、大学生活にスムーズに入ってきたのではないかと思います。この会を毎年計画している学生自治会の皆さん、お疲れさまでした。



2年 種本 純一

新入生のみならず入学おめでとうございます。大学生活もすでに三ヶ月が過ぎ、ひとり暮らしや大学での講義にも慣れ、新しい友人たちと毎日を充実して過ごせていることと思います。存分に学生生活を満喫し、初めての自立した生活のなかで自分自身を成長させ、同じ目標をもつ多くの仲間たちとともに立派な看護師を目指して頑張ってください。

Cross Hearts Festival



第四回「Cross Hearts Festival 2002」が六月二十九日(土)・三十日(日)の二日間に渡り開催され、延べ一、〇八一人の方々が本学を訪れました。

四学年が揃った今年のテーマ「ひとりでは皆のためにみんなは一人のために」は、大学祭を作り上げていくために、皆で力を出し合い協力しようという意味が込められました。

昨年引き続き中庭の特設ステージでは、音楽部のハンドベルなどによるコンサートや、Z・N・Cによるゴスペルの迫力ある歌声が、観客に感動とパワーをくれました。アリーナ



では、北見市の「薄荷童子」、網走市「舞網走乱」、留辺蘂町「留魂輪舞」の「YOSA

Cross Hearts Festival !!
Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing

KOITSORAN」が大学の雰囲気在大いに盛り上げてくれました。

恒例の「ヘルスチェック」では、今年も二六一名の方々の血圧・体脂肪等の各種測定を行いました。ボランティア部では車椅子の疑似体験の感想や考察を展示し、茶道部では茶会を、医療部を考える会では「タバコ」の徹底解明と題し、パワーポイント等を使用して発表を行いました。

模擬店は、松井家VS森脇家、フレンズ、ごっこんや、やきとり満腹、左心房、スウィートカフェ、

Здравствуйте (ズドゥラーストウヴィチエ) ごこんにちは、With a touch, JAZZ喫茶 RED+CROSS、餃子屋等で、おいしそうな匂いや煙が風に運ばれ観客の食欲をそそりました。

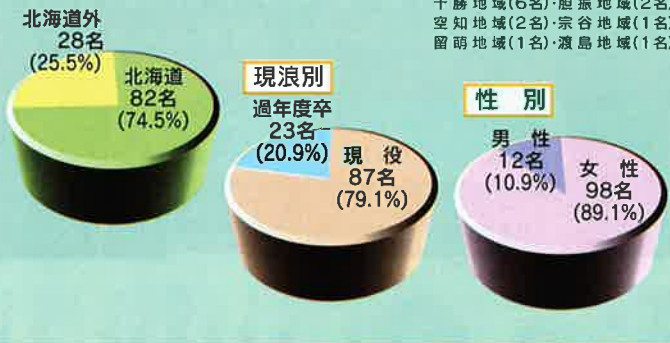
献血は九四人で昨年の三倍に増え、チャリティーバザー・募金の合計約一七、〇〇〇円を日本赤十字社に寄付しました。実行委員会企画による「餅」の販売や、JAFの受付も行われ、見事な打ち上げ花火で「Cross Hearts Festival 2002」の幕を閉じました。



平成14年度入試概況

| 募集人員等 | 推薦入学試験 | | 一般入学試験 | 大学入試センター試験 利用入試 |
|-------|--------|-------|--------|--------------------|
| | 公募推薦 | 指定校推薦 | | |
| 募集人員 | 35名 | 10名 | 45名 | 10名 |
| 志願者数 | 62名 | 14名 | 277名 | 180名 |
| 受験者数 | 62名 | 14名 | 272名 | 180名 |
| 合格者数 | 36名 | 14名 | 75名 | 40名 |
| 実質倍率 | 1.7倍 | 1.0倍 | 3.6倍 | 4.5倍 |

出身地別



■入学者(出身高校) 都道府県別内訳

北海道(82名)・神奈川県(4名)
 青森県(3名)・千葉県(3名)
 岩手県(2名)・新潟県(2名)
 山梨県(2名)・静岡県(1名)
 長野県(1名)・富山県(1名)
 福井県(1名)・石川県(1名)
 岐阜県(1名)・愛知県(1名)
 京都府(1名)
 奈良県(1名)・広島県(1名)

■入学者(出身高校) 北海道地域別内訳

網走地域(31名)・石狩地域(17名)
 上川地域(14名)・釧路地域(7名)
 十勝地域(6名)・根室地域(2名)
 空知地域(2名)・宗谷地域(1名)
 留萌地域(1名)・渡島地域(1名)

シリーズ 講座紹介

成人・老人看護学講座

その1

成人・老人看護学講座には9名の教員が在籍しています。今回は、成人看護学の6名の教員を紹介します。

■河原田 榮子 教授

成人看護学概論・保健、成人看護学演習・実習、救護方法学、災害看護学などを担当しています。臨床では、外科病棟と手術室に勤務していました。さらに、タイ国への国際救護も経験しました。現在は、臨床と教員経験がほぼ半数になりました。どちらの仕事も大好きです。趣味は、演劇鑑賞と社交ダンスです。将来は、双子の娘たちと共に「YOSAKOIソラン」を踊るのが夢です。

■狩野 雅道 講師

主に急性期看護を担当しています。約18年の臨床経験を活かし、少し脱線しながらも授業を進めています。最近、自慢の「猫の額の広さの畑」で野菜を作っています。時々近所の方が見かねていろいろと野菜の育て方を教えてくれます。美味しい野菜ができることを夢見てセッセと水を撒いています。ちなみに去年はキャベツが大きくなりすぎて、食べたのは芋虫でした。今年こそは自分で食べたいです。

■沼田 靖子 講師

担当している科目は、主に慢性期看護で、人間を理解することに重点を置いています。この大学に来て3年が経とうとしていますが、学生の前に立つとマイクを通して胸の鼓動が聞こえているのではないかと心配です。一番の気分転換は、実家の釧路に帰ることと飛行機に乗ることで、釧路がもっと近ければ、車で通いたいのと思っています。皆さんも釧路に遊びに来てください。でも、釧路の街を見かけたとしても「先生」と呼ばないでね。

■西村 めぐみ 助手

4月から夫を旭川に残し、単身で北見に来ています。3月まで旭川の看護専門学校で教員をしていましたが、学生からの評判は、怖い(顔が)、きびしい、など言われていたようです。顔がこんな風なのでしかたがないのですが、それ以来は「いつもスマイル」を心がけています。これからも看護について学生の皆さんとともに学んでいきたいと思っています。

■川城 由紀子 助手

北見に来て1年が過ぎました。千葉・東京で生まれ育った私にとって越冬は大変なものでしたが、ようやく最近暖かくなりほっとしています。以前はバックパックを背負って海外を歩いていましたが、北見に来てからは休日は北海道中をドライブして過ごしています。成人看護学実習では、学生の皆さんと一緒に看護について語り合い、やっぱり看護っていいと実感する毎日です。

■岸野 亜矢 助手

この学校に来て1年が過ぎました。今は実習中で、目の下のクマが広がる毎日です。実習では学生の皆さんと一緒にいろいろなことを感じ、考え、悪戦苦闘の繰り返しですが、本当に学びの多い時間を過ごさせてもらっています。今はなかなかドライブに行くこともできませんが、北海道の雄大な景色にふれたり、自分の感性を磨いていきたいと思っています。

北海道の風景を描き続けた一線美術展常任委員で道展会員だった故田中念(ねん)さんの遺族から、遺作の油絵三十六点が本学に寄贈されました。これは、二年前田中念さんの妻喜弥生(きよ)さんと長女の小沢千緒さんが本学に遺作三点を寄附され「適切な管理で保存状態が良く父の絵を大事にしてくれている」ということで今回の再度の寄贈が決まったものです。本学では、学内常設展示に先立ち市民の皆様にお気軽に鑑賞いただくため五月二十五日から六月九日までの期間、北見市公園町の北網圏北見文化センターで展示会を開催いたしました。

油絵三十六点寄贈される

教員人事

平成十四年三月三十一日付及び四月一日付の教員人事は、左記の通りです。

〔退職〕平成十四年三月三十一日付
 ●成人・老人看護学講座
 助手 松浦さおり

●成人・老人看護学講座
 助手 松本 志保

〔採用〕平成十四年四月一日付
 ●母子看護学講座
 教授 上野美代子

●成人・老人看護学講座
 助手 西村めぐみ

●広域看護学講座
 助手 菅原 千穂

日本赤十字北海道看護大学学内誌

+ Viva Kango

第7号

発行日/2002年7月18日
 編集・発行/広報委員会

〒090-0011 北海道北見市曙町664-1
 Tel.0157-66-3311 Fax.0157-61-3125
 mail to : kouhou@rchokkaido-cn.ac.jp
 http://www.rchokkaido-cn.ac.jp

編集後記

学内誌「+ Viva Kango」第7号をお届けします。今回の特集では6月に行われました大学祭について取上げています。また今年で本学も四周年です。すべて揃い、大学として完成年度を迎えます。今後も魅力ある誌面作りを志して参りますので記事、原稿のご協力をお願い致します。



前列左から：沼田講師、河原田教授、狩野講師、西村助手、岸野助手、川城助手